

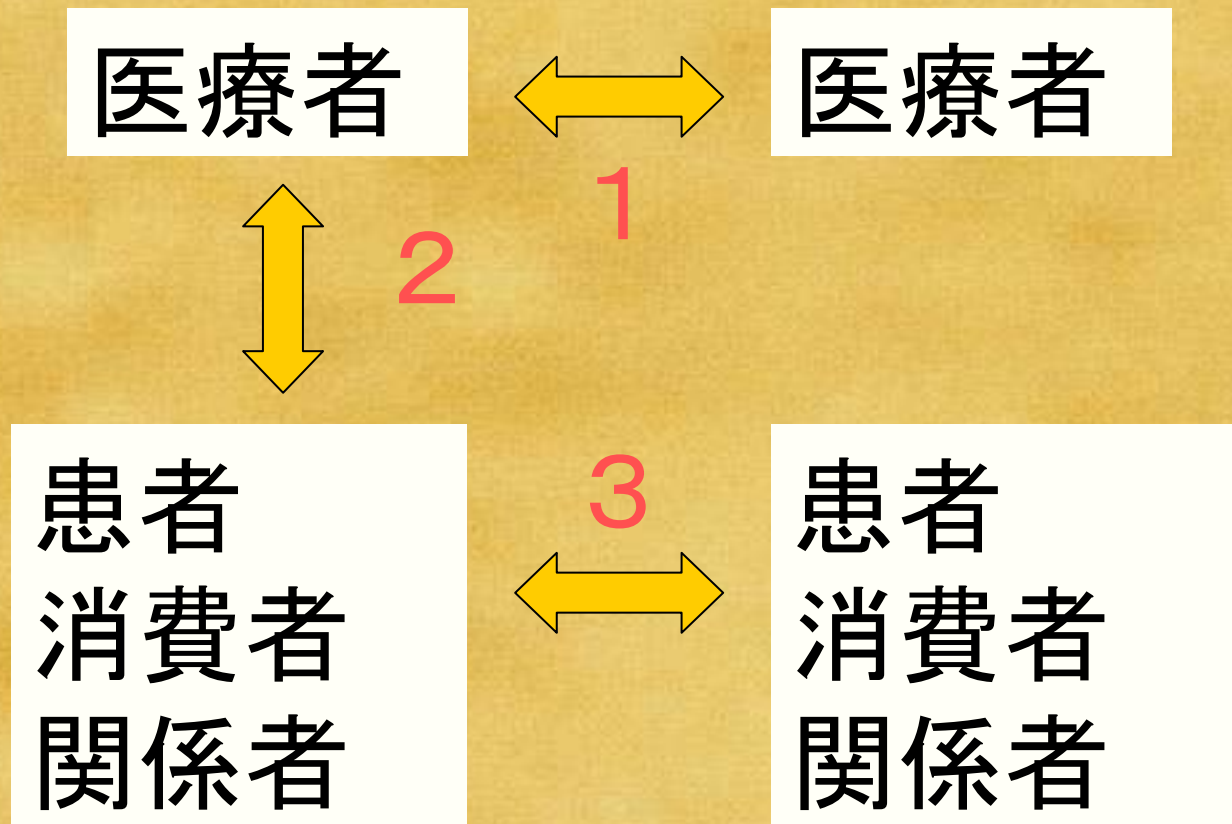
看護情報学概論

聖路加看護大学大学院

「看護情報学」2006

中山和弘

3つのコミュニケーション



ICT化によるコミュニケーションの変化

☞ 電気、電子的（オンライン）

オン（ネット）でもオフ（face to face）でも

☞ 同期性（リアルタイム）＋非同期性

☞ 同報性（1対1、1対n）

個人が組織と対等 組織も個々人対応へ

☞ 方向性 24時間双方向化

☆ 誰もが誰とでもいつでもどこでもどんな情報でも、ユビキタス、オンデマンド

☆ 変化？追加では？

1 医療者間

- ☞ 治療やケアの実践情報
方法と結果の蓄積・共有、データマイニング
- ☞ エビデンス
 - 1) 根拠をつくる
 - 2) 根拠をすぐ見られるように → 2へも
 - 3) 根拠を実践に生かす
- ☞ これら共有資源の作成と公開、管理
ナレッジマネジメント、ポータルサイト
- ☞ さらに患者に理解可能なものへ
RCTは難しくない？
PUS (Public Understanding of Science)

2 医療者と患者間

- ☞ 患者の医療参加 医療はコミュニケーション
- ☞ インフォームドチョイス デシジョンエイド
意思決定に必要な情報（データ＋評価）提示
- ☞ face to faceでは難しかったことがICTで・・・
権力、引っ込み思案、匿名性、・・・
- ☞ ヘルスリテラシー、Consumer Health Informatics
患者が信頼できる情報を探し理解し意思決定するにはどのようなことが必要か 信頼とは？
患者は何でも知っている？
医療者によるわかりやすい情報発信！

3 患者間

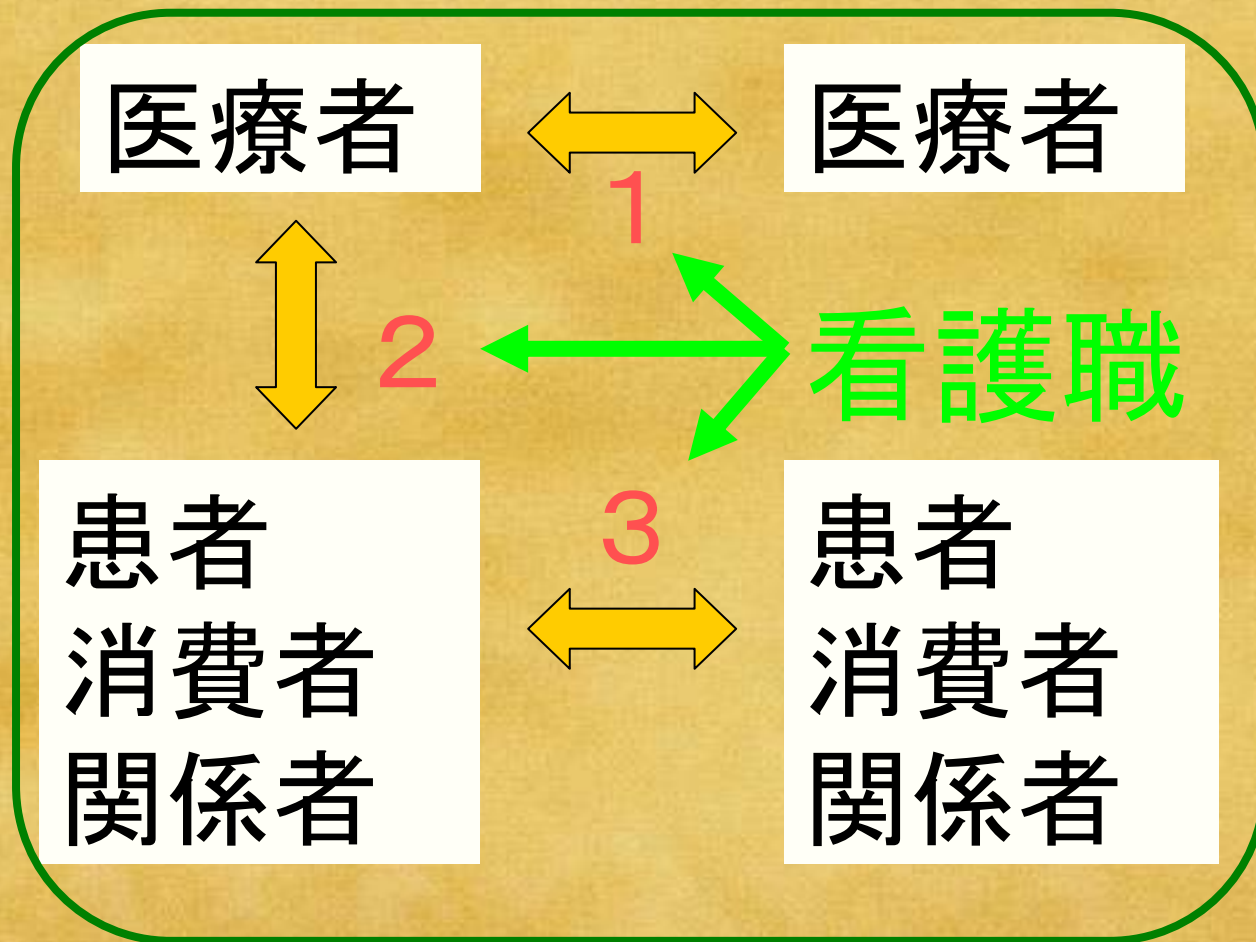
- ☞ 病院→外来→セルフケア→予防・セルフヘルプ
- ☞ グループの力
患者会、当事者グループ、セルフヘルプグループ、サポートグループ
- ☞ 掲示板の威力 一般化、モデリングなど
- ☞ 少数でも1人でもネットなら情報発信、共有
Webサイトは誰でも簡単に作成できる
- ☞ 1から3が統合されたコミュニティ空間の出現
専門職のゆくえ・・・アドボカシー
助け合いのため情報発信！言うべきことは言う！

ICTの影？

- ☞ 人権・著作権・プライバシー侵害、名誉毀損
- ☞ インターネット中毒、ケータイ中毒、ドライアイ、テクノストレス、電磁環境破壊、電磁波、廃棄パソコン
- ☞ 架空請求、不正コピー、ネット詐欺、ネット賭博、サイバーねずみ講、オークション被害
- ☞ 掲示板荒らし、HP改ざん・乗っ取り、迷惑メール、コンピュータ・ウイルス、ハッキング、サイバーテロ
- ☞ 出会い系サイト、児童ポルノ、自殺支援サイト
- ☞ 個人情報流出、メールの盗聴

☆信頼づくり、助け合い、コミュニティ

コミュニケーションの統合促進



コミュニティ



ヘルスリテラシーの定義

☞ The degree to which individuals have the capacity to obtain, process, and understand basic health information and services needed to make appropriate health decisions

「健康についての適切な意思決定を行うにあたって必要な健康情報やサービスを手に入れ、整理し、理解する能力の程度」

(Healthy People 2010, 2001)

ヘルスリテラシー (WHO)

- ☞ 認識面や社会生活上のスキルを意味し、これにより健康増進や維持に必要な情報にアクセスし、理解し、利用していくための個人的な意欲や能力
- ☞ 生活習慣と生活状況の改善を通じて、個人やコミュニティの健康改善を図るよう主体的に行動するための知識・生活上の技術技能・自信の成熟度
- ☞ パンフレットを読んだり、予約を行ったりできる能力ではなく、保健情報に接する機会を増やし、それを効果的に利用する能力の向上によって、エンパワーメントするために不可欠

ヘルスリテラシーの分類

☞ Functional 機能的

☞ Interactional 相互作用の

☞ Critical 批判的

(Nutbeam, 2000)

☞ これらの測定

今のところfunctionalのみ？

ヘルスリテラシーの背景 1 保健医療

- ☞ 医療の高度化・専門化、医療費の増大
- ☞ 疾病構造の変化、セルフケア、アドヒアランス、病院から地域へ
- ☞ ヘルスプロモーション、コミュニティ参加、行動変容
- ☞ 医療格差、標準化、EBM、ガイドライン
- ☞ 医師の役割低下、他職種の役割の増大

背景 2 患者・消費者の権利

- ☞ 患者・消費者の権利、プライバシー重視
- ☞ インフォームドコンセント
- ☞ 自己決定、自律性、消費者主義
- ☞ 女性の地位の変化、ハラスメント、暴力への認識
- ☞ **Patient-centered Medicine**
患者中心の臨床技法



背景 3 国際化、多文化



- ☞ 国際化、移民、識字能力
- ☞ 異文化理解、多文化主義
- ☞ 代替・相補医療、統合医療
- ☞ ナラティブ、構成主義
- ☞ コンテキスト、文脈化

背景 4 情報化、個人化

- ☞ マスメディア、インターネットの普及
- ☞ 健康情報過多、eラーニング
- ☞ デジタルデバイス
- ☞ コミュニケーションの変化
- ☞ リスク化、確率化、不確実化
発生確率 × 問題の大きさ
- ☞ リスクコミュニケーション
- ☞ 個人化、近代化

臨床場面の医者-患者関係の変化

☞ Patient-centered Medicine (Stewart, et al, 1995)

☞ 疾病と病い体験の両方を探る

☞ 全人的に理解する

☞ 共通基盤を見出す

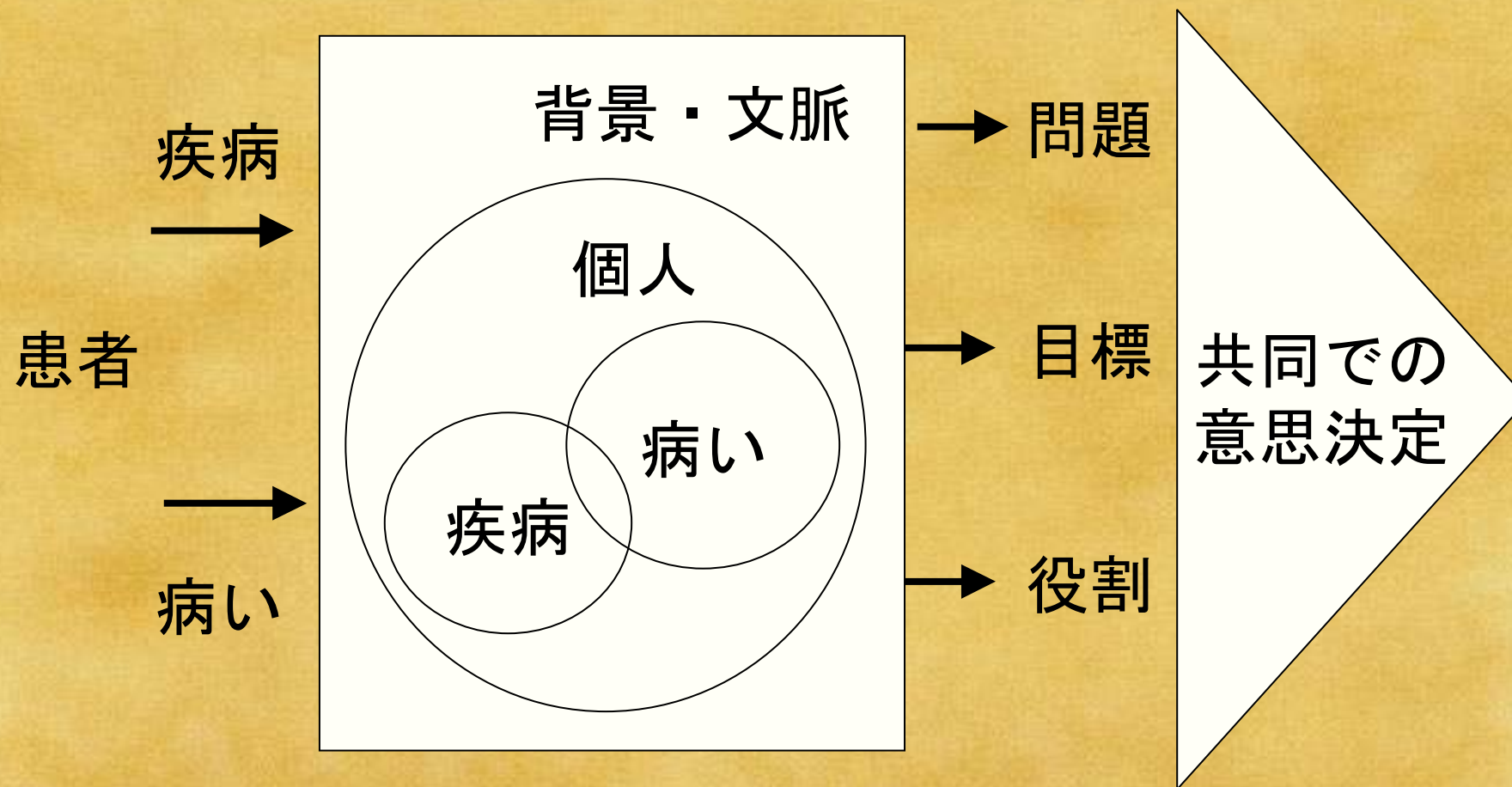
☞ 予防と健康増進を組み込む

☞ 患者・医師関係を強化する

☞ 現実的になる

☞ 専門家と素人の境界は不鮮明に

患者中心の臨床技法 (Stewart, et al, 1995)



ヘルスコミュニケーション

- ☞ 1970年代アメリカ中心で誕生
- ☞ アメリカの大学では公衆衛生学、コミュニケーション学分野で修士課程
- ☞ 「人々に健康上の関心事についての情報を提供し、公的な議論のうえに健康に関する重要な問題をのせ続けること」 (WHO)
- ☞ 「健康増進のために個人やコミュニティに対して情報提供や影響を与えるコミュニケーション戦略の応用や研究」 (Healthy People 2010)

ヘルスコミュニケーションの方向

- ☞ 有用な健康情報を人々に伝え広めるために、マスメディアやマルチメディアを利用し、また他の革新的な技術を利用して、個人的・集団的な健康の独自の視点や、健康発展の重要性をさらに気付かせることができる
- ☞ 多くの現代的文化は、健康に対して良くも悪くも強い影響を与えているマスメディアやマルチメディアによって伝播されている
- ☞ 研究によれば、理論を駆使して行われたヘルスプロモーション事業によって、健康の話題が人々の議論にのぼり、健康のメッセージが強化され、人々がさらに情報を求めることを促し、ある条件下では、健康的なライフスタイルをもたらすという

ヘルスコミュニケーションの領域 (WHO)

- ☞ edutainment あるいは教育導入
- ☞ ヘルスジャーナリズム
- ☞ 個人間コミュニケーション
- ☞ メディア・アドボカシー
- ☞ 組織的情報共有
- ☞ リスクコミュニケーション
- ☞ 社会的コミュニケーション
- ☞ ソーシャル・マーケティングなど

ヘルスコミュニケーションの領域 (Healthy People 2010)

- ☞ 保健医療関係者と患者の関係
- ☞ 個人の健康情報との接触、検索、利用
- ☞ 個人のアドヒアランス
- ☞ 公衆衛生のメッセージやキャンペーン
- ☞ 個人と集団への健康リスク情報の普及
＝リスク・コミュニケーション
- ☞ マスメディアや文化における健康のイメージ
- ☞ 公衆衛生やヘルスケアへのアクセスに関する消費者教育
- ☞ テレヘルス（遠隔医療など）応用の発展

ヘルスコミュニケーションの方法

- ☞ マスメディアやマルチメディアから、物語や人形劇、歌謡などの伝統的かつ文化的に特殊なコミュニケーションまで様々な形を取ることができる
- ☞ まじめなメッセージの形をとることもあれば、ソープオペラなどの現存するコミュニケーションメディアの中に取り込まれることもある
- ☞ コミュニケーションメディア、特にマルチメディアや新しい情報技術の進歩は、健康情報の利用を改善し続けている
- ☞ ヘルスコミュニケーションは個人やコミュニティのエンパワメントをより達成するために、さらに重要な要素となりつつある

動向と信頼性 Web

- Web上の消費者向け健康情報の利用の動向
http://www.geocities.jp/kazu_hiro/nurse/consumer.htm
- 健康情報の入手先
日本：インターネット 55.6%で1位
アメリカ：インターネット 79%
- 「合理的な利用」は少ない
- 正しい知識を獲得する人がいるのも事実

動向と信頼性 テレビ

☞ テレビの健康情報

http://www.geocities.jp/kazu_hiro/nurse/tv.htm

☞ 「不正確な印象」「誇張した表現をしている印象」「医療情報提供番組としての不満足度」「番組中に明らかな間違いを発見した頻度」「誇張した表現をしている印象」

動向と信頼性 ガイドライン

☞ 消費者向け健康情報の質と信頼性

http://www.geocities.jp/kazu_hiro/nurse/webcredibility.htm

☞ 情報提供者側ルール

☞ 利用者ガイドライン

☞ メディカル・ネチケット

☞ 認証機構

☞ 情報利用支援者、支援システム

学習理論とコミュニケーション

☞ 行動主義

刺激に対する反応がその結果によって強化され、行動変容。心理的プロセスはブラックボックス

☞ 認知主義

経験や環境によって、インプットの解釈、保持、アウトプットが異なるプロセスに注目

ガニエの9教授事象やARCSモデル

☞ 構成主義

伝達内容は、主観的に変化。学習者は知識や経験と新しい情報を合わせて内的に個別に構成。ナラティブ・アプローチ。社会構成主義「他者との交流によって知識が社会的に構成」グループ学習

看護と学習支援

- ☞ アメリカ看護協会の看護の定義“the diagnosis and treatment of human responses to health and illness”
- ☞ 健康と病気への反応は、刺激にどのように反応し行動変容するかという学習理論の課題と重なる
- ☞ 患者のナラティブ、病い経験などへの関心は学習者の認知や学習プロセスへの関心と共通
- ☞ 看護職の役割が、対象の最も近いところに寄り添い、その患者や市民の健康問題についての学習支援であるとするれば、支援される側の患者や市民とともに学ぶ環境が形成できれば効果的。



看護情報学とe-learning

☞ The 9th International Congress on Nursing Informatics (NI 2006) [NI2006](#)

☞ 韓国での看護情報学の研究の動向
Research Trends of Nursing Informatics in Korea

5 research subjects:

- 1) system development/database
- 2) electronic patient record
- 3) standardized language/ classification
- 4) **Internet/web/education**
- 5) others.



看護教育 看護情報学教育

☞大阪府立大学看護学部 現代GP

CanGo

☞菱沼先生「形態機能学」

ID:slcnstudent

PW:ma5yp2kd

☞University of Colorado at Denver & Health
Sciences Center School of Nursing

Graduate Health Care Informatics



患者の学習情報

☞ REPARERE (learning REsources for
PAtients and RElatives during Recovery)

☞ BRENNAN healthsystems LAB

☞ CHESS

☞ 市民の健康に役立つ北米大学のコンテンツ
集

マルチメディアのオープンデータベースがもたらす健康学習素材

最近話題のオープンデータベース

YouTube ある意味ではMixiやblogも（写真の効果）

「ワッチミー！TV」フジテレビ

Web 2.0の挑戦者：だれもが「放送局」になれる
PixPO

患者の語りデータベース

本学図書館の電子図書館→情報センター（文書館）
るかなび、闘病記、看護ネット、文書館→市民、看護職
のためのなんでもデータベースへ